

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

徳島県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	石井町 高浦中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	14
生徒数	73	53	70	1	197	

研究の概要

1. 研究主題

たしかな学力の向上をめざした学習指導のあり方

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

国語 1年生(読む・書く・話す・聞くという力がすべての学習の基本であると考えるため。生徒数が多いため。)
 数学 1年生(理解度に差が出やすい教科であるため。生徒数が多いため。)
 英語 1年生(理解度に差が出やすい教科であるため。生徒数が多いため。)

(2) 年次ごとの計画

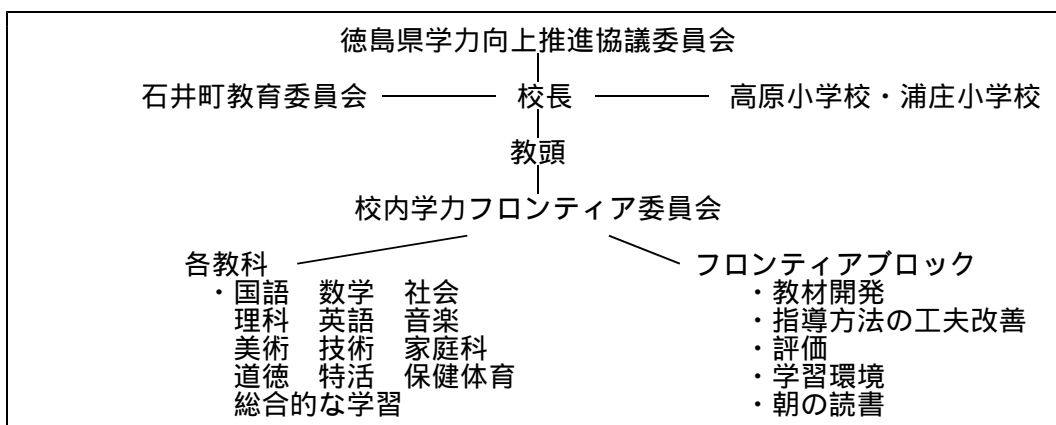
平成 15 年 度	<p>テーマ たしかな学力の向上をめざした学習指導のあり方</p> <p>研究の見通し 個々に応じたきめ細かな指導(TT指導・少人数指導)や独自の教材開発を進めることで、学習の基礎・基本を定着させることができるのではないかと。</p> <p>朝の読書や国語科と連携した読書指導により、本に親しみ、読む力を伸ばすことにつながるのではないかと。</p> <p>朝のセミナープリントや基礎ドリルを繰り返すことによって自ら学ぶ姿勢が身に付き、学習の基礎基本の定着につながるのではないかと。</p>
	<p>研究の内容・方法</p> <p>国語科 「わたしのすすめるこの一冊」という単元学習の実践。フロンティア協力校でもある地域の小学校の6年生に本を紹介に行くという目標を設定して、TT指導・課題別少人数指導を有効に使い、読む・書く・話す・聞く力を育成する。</p> <p>数学科 ・基礎的な計算力をつけること ドリル学習をすることによって基礎的な計算力をつけ後々の学習のしっかりとした土台作りをする。 ・問題を解ける喜びを知ること 生徒が主体的に学習し、問題が解けることの楽しさを知り数学に対する苦手意識を解消する。</p> <p>英語科 理解度の差が大きくなるということの主因は読む力と書く力の差が開くことであると考え、毎時間の単語テスト・音読を繰り返し基</p>

	<p>礎・基本を徹底する。</p> <p>リレー読書やブックトーク、講師を招いての「読み聞かせ」などで読み深めるおもしろさを体験させ、読書力の向上につなげる。</p> <p>セミナーのプリント学習の徹底と習熟度別に応じたドリルを制作し有効活用することで個に応じた指導をし、学習の基礎・基本の定着を図る。</p>
--	---

平成 16 年 度	<p>テーマ たしかな学力の向上をめざした学習指導のあり方</p> <p>研究の見通し 個々の生徒に応じたきめ細かな指導（TT指導・少人数指導）や独自の教材開発を進めることで、学習の基礎・基本を定着させることができるのではないかと。また、習熟度別少人数指導を取り入れることによりさらに効果が得られるのではないかと。</p> <p>朝の読書や国語科と連携した読書指導により、本に親しみ、読む力を伸ばすことにつながるのではないかと。</p> <p>朝のセミナープリントや基礎ドリルを繰り返すことによって自ら学ぶ姿勢が身に付き、学習の基礎基本の定着につながるのではないかと。</p> <p>各教科と総合的な学習の時間の相互活用による発展学習で、学ぶことの喜びや自信が得られるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>国語科 「話す・聞く」の力を伸ばすための単元学習を設定する。TT指導・少人数指導を有効に取り入れる。</p> <p>数学科 ・基礎的な計算力をつけること ドリル学習をすることによって基礎的な計算力をつけ後々の学習のしっかりとした土台作りをする。 ・問題を解ける喜びを知ること 生徒が主体的に学習し、問題が解けることの楽しさを知り数学に対する苦手意識を解消する。</p> <p>英語科 語彙力を更に伸ばすため、単元ごとのテストに加えて品詞ごとの単語テストも取り入れる。また、少人数指導を習熟度別にクラス分けをして実施する。</p> <p>リレー読書やブックトーク、講師を招いての「読み聞かせ」などで読み深めるおもしろさを体験させ、読書力の向上につなげる。また、情報収集の場として学校図書館の利用をすすめる。</p> <p>セミナーのプリント学習の徹底と習熟度別に応じたドリルを制作し有効活用することで個に応じた指導をし、学習の基礎・基本の定着を図る。</p> <p>学んだことを生かせる場を作り、生徒の学習の意欲向上につなげる。</p>
--------------------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

指導方法について

今年度当初よりTT指導・少人数指導を行なってきたが、指導方法を変えたことでの成果となると具体的な数値は出ていない。TT指導・少人数指導共に実施している1年生を対象にしたアンケートの結果を報告する。

国語と英語の少人数指導については共に8割以上の生徒が「よかった」と回答し、「少人数指導を続けてほしい」と思っている。その理由として挙げられたものは、

- ・わからないとき聞きやすい。
- ・先生の説明や発音が聞き取りやすい。
- ・ひとりひとり教えてくれる。
- ・発表がたくさんできる。
- ・集中できる。
- ・発表しやすい、恥ずかしくない。

などである。

数学のTT指導についてはほとんど全員の生徒が「よかった」と回答し、「TT指導を続けてほしい」と思っている。その理由として挙げられたものは、

- ・わからないときすぐ教えに来てくれる。
- ・どっちの先生もわかりやすく教えてくれる。
- ・よく見てもらえる。
- ・質問がしやすい。

などである。

少人数指導は、初め1年生ということもあって個人の各能力もわからないまま単に人数を二つに割っただけの少人数でスタートした。授業を進めるなかで、確かに人数が少ない方が一人にかかる時間が多くなり生徒の集中力も長く持続するようだが、活発な1年生にとって自分の意見を発表したり友達の意見を聞いたりする伝え合う力をつけるような授業においては、マイナス面もあることがわかった。

各教科で試行錯誤を重ね、課題別の少人数指導を取り入れるなど単元の目標などにより、授業形態もいろいろ試してみることができた。評価についても一人の教師が授業を進めるなかでもう一人の教師が評価の基準や生徒の資料を入れた座席表を用いて観察法での評価をするなど、二人で授業ができる利点を生かせたと思う。

ドリル学習について

各教科で漢字、単語、理科用語などの小テストを繰り返しているが、特に数学科では毎時間授業の最初5分～10分を使いドリル学習を続けてきた。1学期末にとったアンケートと3学期にとったアンケートを比べてみると、正の数・負の数の計算や文字の式の計算などを苦手と答えた生徒は少なくなっている。特に女子生徒で「数学は苦手」と答える生徒の数が減っているのが目についた。

しかし、2学期からは計算だけでなく関数などの小学校の算数と大きく異なる学習内容になったため、方程式、比例・反比例などを苦手と感じている生徒が多いことがわかった。アンケート結果や2月に実施した5教科の観点別の学力検査の結果を待って、今後のドリル学習の問題を作っていくと考えている。

生徒一人一人の能力や苦手分野がわかるのはもちろん、それぞれの考え方

の特徴やミスしやすい箇所までわかり、継続することの重要性を感じている。

朝の読書について

毎朝 15 分間、モーツァルトの BGM を聞きながら教師と生徒が読書に没頭している。1 年生では国語科とも連携して朗読による本の紹介をしたり、講師を招いての読み聞かせを聞いたりすることによって読書への興味を持たせることができた。1 年生が 1 学期と 3 学期に行なった読書アンケートでは、「1 ヶ月間に読んだ本の冊数」という項目で 2.6 冊から 4.0 冊へ大きく上昇した。また、本の選択に迷っている生徒のために「おすすめの 30 冊」という読書案内を配布した。

1 分間スピーチについて

帰りの学活をで 1 分間スピーチを続けている。時間や内容は学級で決めて最終的には頭の中で話の構成を組み立て、みんなの前で臆することなく話ができるようになることを目標としている。全校朝会でクラスの代表が話したり、教師も話をする機会を持っている。3 学期に行われた 1 年生の人権学習では他校の先生もいるなかで、それぞれの思いを自分の言葉で大勢の生徒が語ることができ「話す力」が徐々に上がっているのではないかと思われた。

2. 今後の課題

指導方法について

1 月にとったアンケートの結果を見てみると特に少人数指導について少数ではあるが気になる意見もみられた。それは

- ・先生によって微妙に進度や内容が違うのでテスト前や大事な单元などはいっしょにしてほしい。
- ・たくさんの人の意見が聞きたいし、活気がある方がいいのでいっしょにした方がいい。

という回答である。

少人数指導はその意義を生徒や保護者にしっかりと伝え、生徒と教師の厚い信頼関係の上で成り立つものだと感じた。少人数だからできる授業を展開して成就感を味わわせたり、授業や单元により有効な指導方法を取り入れたりすることが必要だ。各教科部会や二人の教師の間で十分な話し合いや研修の時間をとり、計画的にすすめることが重要である。

そのためには習熟度別少人数指導も有効であると考え、特に英語科で実践するために検討中である。どのような授業で取り入れ、どのような能力で分けるかなど課題は多い。

ドリル学習について

数学科で毎時間続けてきたドリル学習についても授業ではこなす量が限られているので「もっとやりたい」、「難しい問題にも挑戦したい」という声も多かった。生徒が自由に自分に合う問題を好きなだけできるように T T ルームのロッカーを利用して多種多数のプリントを配置する予定である。

朝の読書について

成果としても挙げたように、ほとんどの生徒が「朝の読書」を楽しみにしているようだ。しかし「本を読むこと」になれていない生徒や読む力の弱い生徒は本の選び方もわからず、いい加減な選び方をして飽きてしまい最後まで読み通すことができない。また、漫画やテレビドラマのノベライズなど読みやすい本に偏っていたりもするので、読書の幅を広げるという意味でも常に教師側から読書の情報提供をしなくてはならないと痛感した。小説や物語以外で「おすすめの 30 冊」を作ったり、各教科の授業と関連のある本のコーナーを作ったりしようと考えている。

学習環境の整備について

各校のフロンティアティーチャーから聞いたり、各校の研究会に参加すると掲示物や学習補助資料が精選されていることに感心させられる。本校でも教室や T T ルームを落ち着いて学習のできる場所として学習環境を整備したい。また、生徒の作品を中心に生徒の学習意欲が向上するような掲示物や学習補助教材を準備していきたい。

学力把握のための学校としての取組

- ・指導方法についてのアンケート実施（T T指導・少人数指導について）
- ・読書アンケートの実施（読んだ本の冊数・著書名について）
- ・基礎学力検査の実施（国語・数学・英語）
- ・学習意識調査の実施
- ・観点別学力検査の実施（国語・社会・数学・理科・英語）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究発表会 平成16年 11月開催予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 3学級以下 □ 4～6学級
 ■ 7～9学級 □ 10～12学級
 □ 13～15学級 □ 16学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 □ その他
- 【研究教科】 ■ 国語 □ 社会 ■ 数学 □ 理科
 ■ 外国語 □ 音楽 □ 美術 □ 技術・家庭
 □ 保健体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無